

【研究内容】

古谷研究室では、ル・コルビュジェ実測調査研究会の活動の一環として、「ロンシャンの礼拝堂とその建築群」の研究・調査を行っている。2013年度は「巡礼者の家」、2014年度は「司祭者の家」、2015年度に「ロンシャンの礼拝堂」の実測調査を行った。また、研究の一環として2015年7月6日~8月2日にル・コルビュジェ財団の協力を得て、コルビュジェが自ら数多く撮影し、その空間的思考の道具としていた写真に焦点を当てた展覧会、没後50年「写真家としてのル・コルビュジェ」展を早稲田大学会津八一記念博物館にて開催した。2016年度も継続してフランスに赴き、実測調査を行い、これまでの調査・研究の成果として新たに展覧会を開催する予定である。



「写真家としてのル・コルビュジェ」展

©コルビュジェ実測調査委員会



ロンシャンの礼拝堂実測風景

【参考文献】

- 『輝く都市』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1963
- 『建築をめざして』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1967
- 『コルバニスム』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1967
- 『モデュール1,2』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1976
- 『人間の家』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1977
- 『住宅と宮殿』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1979
- 『東方への旅』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1979
- 『プレジジョン—新世界を拓く建築と都市計画(上)(下)』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1984
- 『ル・コルビュジェ全作品集1~8巻』ウィリ・ボジガー、A.D.A. EDITA TOKYO、1978 ...上記他

没後50年
「写真家としてのル・コルビュジェ」展
Le Corbusier as a Photographer: A 50-Year Memorial Exhibition
2015. 7. 6 mon — 8. 2 sun
会場 早稲田大学会津八一記念博物館
東京都新宿区西早稲田1-6-1
開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)
観覧料 大人1,000円(学生500円) 小学生以下無料
主催 早稲田大学建築学系 早稲田大学会津八一記念博物館
協賛 早稲田大学学生会 早稲田大学学生会 早稲田大学学生会
協力 早稲田大学学生会 早稲田大学学生会 早稲田大学学生会
お問い合わせ 03-3486-2111(受付時間:10:00~17:00)

■研究会活動

- 2013年 「巡礼者の家」 実測調査
- 2014年 「司祭者の家」 実測調査
- 2015年 7/6~8/2「写真家としてのル・コルビュジェ」展
9/9~10「ロンシャンの礼拝堂
(Chapelle Notre-Dame du Haut)」実測調査
- 2016年 ル・コルビュジェ建築実測調査展(予定)



コルビュジェ撮影ネガ

© Fondation Le Corbusier



実測風景



Negozio Olivetti 1957-1958



Castelvecchio museum

【研究内容】

本研究は、近代化の過程の中で多くの近代建築家たちが建築の工業化を進めようとした活動の中、イタリア・ヴェネト地方で手仕事にこだわり創作を続けたイタリアの近代建築家カルロ・スカルパを対象とし、彼が復興した素材・技術を研究し、また彼の死後、それらがどのように伝承されたかを研究することで、彼の建築家としての設計意図とその反映を探ることを目的とする。新築計画よりもむしろ改修計画の名作を多く残したカルロ・スカルパは既存の都市・建築、周辺環境の所与の条件と自身の設計が渾然一体となる設計手法に特長がある。研究は、カルロ・スカルパと協同した職人や弟子、研究者などの見識者へのインタビュー、ならびにオリジナルドローイングや現地調査、文献翻訳等の一次資料を通して、設計意図や追体験を考察する。また、職人との共同など現場で生まれた多くのディテールや素材、特徴的な空間構成に潜む設計思想を探っていく。



【参考研究テーマ】

- 設計論的考察
 - ・Vanca Popolare di Verona の設計においてスカルパと共同した弟子 "Arugo Rudi" からみるカルロ・スカルパ論
- 手法論的考察
 - ・開口部論(空間・ディテール論的視点からみるOlivetti Show room など)
- 建築論的考察
 - ・職人・素材研究(スタック職人Zardini氏、金物職人Zanon氏へのインタビューなどを通して)
 - ・Casa Veritetti 邸研究
 - ・Il Palazetto 邸研究

...上記他



Tomba Brion 1969-1978



Gipsoteca Canoviana 1955-1957



Fondazione Querini Stampola 1963-65

【参考文献】

- 『設計意図とその反映に関する研究1-9』古谷誠章、1983-1995
- 『テクニク・カルチャー』、ケネス・フランプトン、TOTO出版、2002
- 『建築の詩人カルロ・スカルパ』、斎藤裕、TOTO出版、1997
- 『Carlo Scarpa The Complete Works』 Francesco Del Co, Giuseppe Mazzariol, Electa, 1984
- 『Carlo Scarpa Architektur and Design』、Guodo Beltamini, Itaro Zannier, RIZZOLI NEW YORK, 2007
- 『CARLO SCARPA'S TOMBA BRION』、GUIDO GUIDI、2011 ...上記他

The Spirit of Architecture, Kiyonori KIKUTAKE in Architectural Archives

Human life
3「Form」 functional approach
1「Form」 Visional approach
2「Form」 Technological approach
function space

【参考文献】

- 『代謝建築論』、菊竹清訓、彰国社、1969
- 『人間の建築』、菊竹清訓、井上書院、1970
- 『建築のこころ』、菊竹清訓
- 『菊竹清訓 作品と方法』、菊竹清訓、美術出版社、1973
- 『菊竹清訓巡礼』、磯達雄・宮沢洋、日経BP社、2012
- 『菊竹清訓作品集1「型」の展開』、菊竹清訓、求龍堂、1990
- 『菊竹清訓作品集2「型」の概念』、菊竹清訓、求龍堂、1990
- 『菊竹清訓作品集3 日本型住宅』、菊竹清訓、求龍堂、1990
- 『菊竹清訓作品集4 The Works of Kiyonori Kikutake』、菊竹清訓、求龍堂、1990
- 『建築を考える2—建築デザインへのアプローチ』、菊竹清訓編、鹿島出版、1992
- 『建築における日本的なもの』、磯崎新、新潮社、2003
- 『松井源吾作品集 1955-1989』、松井源吾作品集刊行委員会、鹿島出版、1990 ...上記



東光園模型を見る菊竹清訓

【参考研究テーマ】

- 設計論的考察
 - ・代謝建築論に関する研究
 - ・構造に関する研究(松井源吾との共同など)
- 建築論的考察
 - ・モダニズム期における「日本的なもの」に関する研究
 - ・作品研究
 - ・高密度都市空間研究
 - ・アーカイブ研究

...上記他



徳雲寺納骨堂 1965

建築のこころ アーカイブにみる菊竹清訓展

2014.10.29(水)~2015.2.1(日) 観覧料 10,000-15,000
会場 国立近代建築資料館
主催 国立近代建築資料館 建築学系 建築学系 建築学系
協賛 早稲田大学建築学系 早稲田大学建築学系 早稲田大学建築学系
お問い合わせ 03-3486-2111(受付時間:10:00~17:00)



アーカイブにみる菊竹清訓展 展示内容

【研究内容】

本研究は、平成23年享年83歳で他界し、生涯を通じてその代表的な著作である『代謝建築論』を礎に置いた建築活動を精力的に行った建築家『菊竹清訓』を研究対象とする。彼は、日本から世界へ向け発信されたムーブメントとして、大きな影響力を持った近代建築運動であるメタボリズムの中心的なメンバーの一人として、今日なお世界から注目され続けている、早稲田大学建築学系を卒業した日本人建築家である。彼が活躍した時代は、戦後の復興から高度経済成長を迎え、東京オリンピックや大阪万博が開催されるなど、日本が第二次世界大戦から復興を遂げるまでの時代の顔を作ってきたとも言える。今後、菊竹清訓の建築作品における老朽化や用途変更による解体・建替が起こる前に、菊竹清訓が残した建築資料を総合的に整理し、研究することにより、「日本の近代化過程」における建築資料の価値を社会に発信し、理解を得ることとともに、彼の設計意図や活動、思想に関して多角的な論の展開を試みる。



本研究は、いわゆる「負の建築」といわれるものの定義を確立するとともにその建築・モニュメントの存在意義を確かなものとする研究である。先の震災経験し、東日本大震災に際する「メモリアル施設」および史的文化的財を含む改修計画の将来性を検討することが現代において重要であると考えられる。



世界の負の建築

Word Trade Center sketch

- 【参考文献】
- 『輝く都市』ル・コルビュジェ、鹿島出版会、1963
 - 『アースワークの地平 一環境芸術から都市空間まで』ジョン・パーズレイ、鹿島出版会、1993
 - 『占領期・占領空間と戦争の記憶』長 志珠絵、有志舎、2013
 - 『世界の古塔』佐原 六郎、雪華社、1985
 - 『プレキング・グラウンド 人生と建築の冒険』ダニエル・リベスキンド、筑摩書房、2006 ...上記他

建築デザイン方法論研究2016

建築と芸術を横断する方法論研究

本研究は、メディアが発達してきた近現代の情報社会において、建築家・写真家・芸術家がそれぞれどのような思惑で建築に接して、建築から影響を受けまた与えたのかを目的とする。研究方法は、ある建築家や写真集、芸術作品などの一つに焦点を当て、インタビューや現地調査・資料を基にそこに関わった人物の思想背景を考察する。写真に撮られることや芸術から影響を受けることによって生まれてきた特徴的な空間構成に潜む設計思想を探っていく。

- 【参考文献】
- 『10+1 建築写真』山田 脩二、大橋 富夫、INAX 出版、2001
 - 『石元泰博一写真という思考』森山 明子、武蔵美大出版、2010



■昨年度卒業論文概要

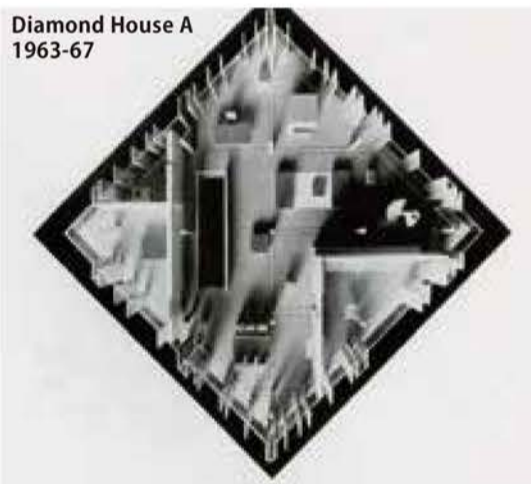
・1960 年出版『桂 日本建築における伝統と創造』の制作過程にみる近代の建築家と写真家の思想

写真家の石元泰博が桂離宮を撮影を行い、その写真を丹下がトリミングを行ってレイアウトを行っていて、建築家と写真家が共働しながら、桂離宮を造形的に切り取ったこの写真集は、伝統論争の時代の中、建築業界に大きな示唆を与えた。写真集に使用されたネガを手に入れて、写真のトリミング範囲を一枚一枚追うことにより、制作過程を追う。また、当時の時代背景を踏まえて建築家と写真家の建築に対する視線に注目して見ることによりモダニズム期の思想の一端を明らかにした。

以下 2015年までの研究で取り扱った作家



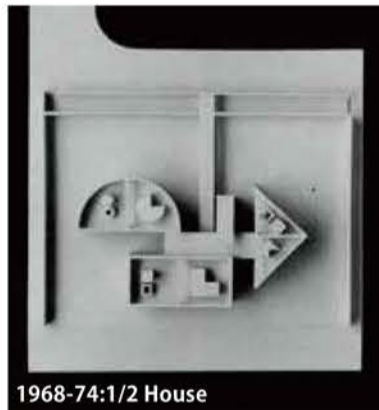
John Hejduk (1929-2000)



Diamond House A 1963-67

【研究内容】
本研究は、建築家でありカーパー・ユニオン（ニューヨーク）での教育者、また詩人、理論家でもあったジョン・ヘイダックを対象とする。ヘイダックは他に類例を見ないアンビルトの建築作品や著作を通し、欧米そして日本の現代建築家に大きな影響を与えた作家である。彼は70年代にピーター・アイゼンマンやリチャード・マイヤーと共に「ニューヨーク・ファイブ」の一人として数えられ、コルビュジェ、ミースらモダニズムの歴史、デ・ステイルやキュビズムなどの芸術思想に根ざした作品を発表し、当時の建築界で論争を巻き起こした。その後は「マスク」という独自の形式に基づいた作品群を通して、現代社会や都市に対する提言を行ない、晩年には建築における精神性・宗教性にコミットした作品群を残した。研究は、カナダ、モントリオールのCCA(Canadian Centre for Architecture)にあるオリジナルドローイング調査や研究者・見識者へのインタビュー、現地調査、文献翻訳、著書の分析等を通し多角的な論の展開を試みる。

- 【参考文献】
- 『Education of An Architect』, John Hejduk, Monacelli, 2000
 - 『Five Architect』, Eisenman, Graves, Gwathmey, Hejduk, Meier, Oxford University Press, USA, 1975
 - 『MASK OF MEDUSA - WORKS 1947-1983』, John Hejduk, Rizzoli International Publications, 1989
 - 『Vladivostok』, John Hejduk, Rizzoli, 1989
 - 『Soundings』, John Hejduk, Rizzoli, 1993
 - 『SANCTUARIES : The Last Works of John Hejduk』, K. Michael Hays, Whitney Museum, 2003
 - 『Such Places as Memory: Poems 1953-1996』, John Hejduk, The MIT Press, 1989
- ...上記他



1968-74:1/2 House

- 【参考研究テーマ】
- 設計論的考察
 - ・スタディから見る初期作品やマスクシリーズの成立過程について
 - 手法論的考察
 - ・キュビズムや浮世絵からの影響からみる表象研究
 - 建築論的考察
 - ・初期作品の形態にみるモダニズムの影響の研究
 - ・「ニューヨーク・ファイブ」の比較研究
 - ・実施プロジェクト (Wall House 2 やベルリンの集合住宅) について
- ...上記他



BIGA 1987



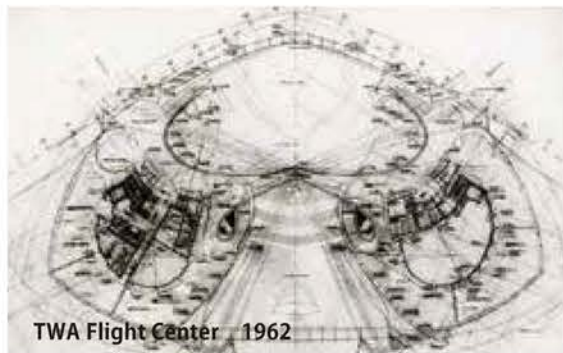
Bye House 2 (Bye House) 2001

【研究内容】
エーロ・サーリネンは1910年に生まれ、1961年に没するまで、短期間のうちに数々の名作を残している。当時、彼は個々の作品で異なる表現が使われ、統一性に欠けた特徴が、建築における共通言語を見つけようとしたモダニズムの流れに反しているとして、度々批判された。このような状況に加え、エーロ・サーリネン死後、50年近く立つ2004年まで彼のアーカイブは一般に公開されることがなかったため、世界的に見ても研究が進んでいない現状がある。しかし、彼のその多様な作風は、単純性を追求したモダニズム以降に目指された新しい建築像にある一定の示唆を与えていたものとして捉え直すことができ、現代的であるともいえる。近年、Yale大学にアーカイブ資料が寄付されたことにより公開されたオリジナルドローイングや現地調査、研究者や知見者へのインタビュー、文献翻訳を通し、エーロ・サーリネンを中心としたモダニズムやポストモダン、また現代までの歴史を俯瞰的に捉え、彼の思想を探求する。



CBS building 1965

- 【参考文献】
- 『Eero Saarinen on His Work』, Eero Saarinen, Yale University, 1968
 - 『SD 選書 エーロ・サーリネン』, 穂積信夫, 鹿島出版会, 1996
 - 『現代建築家シリーズ エーロ・サーリネン』, 二川幸夫 / 菊竹清訓 / 穂積信夫, 美術出版社, 1967
 - 『a+u Extra Edition EERO SAARINEN』, 株式会社エー・アンド・ユー, 1984
 - 『GA6 Eero Saarinen』, ADA EDITA, 1971
 - 『EERO SAARINEN Makers of Contemporary Architecture』, Allan Temko, Literary Licensing, LLC, 2011
 - 『EERO SAARINEN FURNITURE FOR EVERY MAN』, Brian Lutz, Pointed Leaf Press, 2012
 - 『EERO SAARINEN FURNITURE FOR EVERY MAN』, Brian Lutz, Pointed Leaf Press, 2012
- ...上記他



TWA Flight Center 1962



Eero Saarinen (1910-1961)



MIT Chapel Building 1955

- 【参考研究テーマ】
- 建築論的考察
 - ・北欧研究
 - ・作品研究
 - ・共同したした職人・建築家研究 ...Eamesなど
 - ・後期モダニズム以降のアメリカ建築家研究
 - ・同世代の建築家との比較など
- ...上記他